

藤岡地域包括支援センター 担当

日 時： 令和8年5月20日（水）午後2時5分～2時25分

会 場： 栃木市役所大平総合支所

事例数： 1ケース（令和7年9月17日検討した事例の振り返り）

参加者数： 13名

事例提供者1名、助言者6名、包括職員2名、傍聴者4名

小児麻痺により歩行が不安定な上、坐骨神経痛がある 92 歳女性
〈目標〉1日： 外出の機会を設け、楽しみの多い生活を送ることができる。
1年： 通所サービスを利用することで気分転換ができる。
利用サービス： 通所リハビリテーション、予防介護福祉用具貸与

《前回会議での支援策》

支援方針： 転倒予防のために住環境を見直し、リハビリやセルフケアを行うことで、現在の身体機能を維持する。

助言内容

- ①転倒リスクがあるため、転倒しやすい場所があるかどうか住宅環境の見直しを行う。
- ②右足の小児麻痺により左足に負荷がかかることから、左下肢の負担軽減のため、セルフケアができるような支援を行う。
- ③内服薬によるふらつき・眠気など、転倒につながる副作用があることを本人家族と共有する。
- ④腎臓に負担をかけないよう、水・白湯・麦茶を中心に水分摂取をしっかりと行う。

《支援結果・状況》

- ①達成： 住環境を再確認し、自宅内では歩行器を使用、また外出時にはスロープを使用する等安心安全に生活することができている。
- ②達成： ハイカットの靴を使用するようになり、歩行が安定し、通所リハビリは週2回休まず通うことができている。
- ③達成： サービス担当者会議において、内服薬の副作用による転倒のリスクについて本人家族と共有した。
- ④達成： ペットボトル等を常時テーブルの上に置くことで、こまめに水分摂取ができるようになった。